



# おおや高原有機野菜部会 就農・定着応援プラン

作成年月日 令和6年3月1日



養父市おおや高原地域就農・定着応援チーム

## 1 位置

養父市は、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、山岳高原地帯などの豊かな自然を有しています。面積は 422.91 km<sup>2</sup>と広大で、兵庫県の約5%、但馬地方の約20%を占めています。市内には、一級河川円山川が南東から北東の方向に流れ、その支流の八木川と大屋川があります。また、県内最高峰の氷ノ山や、八チ高原・妙見山・若杉高原などの山岳高原地帯があり、山頂部や高原の湿地には亜寒帯性の貴重な植物等が残存しています。市域のほとんどが急峻な山岳地形ですが、河川沿いに谷底平野が発達しており、谷底平野を中心に生活圏が展開しています。土地利用でみると市域の7割超を山林が占め、田・畑を合わせた耕作地は市域の約2割程度です。



### 【アクセス】

車・・・大阪から約2時間

神戸から1時間40分

京都から2時間30分

電車（JR 特急）・・・京都・大阪・神戸から  
約2時間10分

飛行機（但馬空港まで）

東京から約2時間15分

大阪から35分

## 2 人口

養父市は人口 21,408 人、世帯数 9,103 世帯が生活しています。そのうち、大屋地域の人口は 2,982 人、世帯数 1,346 世帯が生活しています(令和6年3月1日現在)

## 3 気候

気候は日本海型で、一般に多雨多湿、冬季は大陸からの季節風が強く、積雪も多い状況です。地球温暖化の影響により、1980年代から2010年代にかけては、年間降水量が増加傾向、平均気温が上昇傾向、積雪量は減少傾向にあります。

## 4 地域の農業

農業は中山間地が多く水稻栽培が面積・収穫量ともに兵庫県内のシェアの1.9%となっています。経営耕地面積0.5ha以下の小規模農家の割合が約半数となっています。但馬牛を中心に畜産も盛んに行われており、良質な堆肥も確保しやすい地域です。野菜栽培では、冷涼な気候を活かした高原野菜と有機野菜の生産が盛んに行われており、これらの産地を中心に新規就農希望者も増加しています。中でも、大屋町では、新規就農した若手農業者が但馬有機の会を組織して有機野菜の生産に力を入れています。

## 5 観光

近代化産業遺産「明延鉱山」、但馬5社のひとつ「養父神社」、氷ノ山を望む、美しい「別宮の棚田」、出雲大社からの贈り物「名草神社 三重塔」、但馬古代史を今に伝える「箕谷古墳群」、歴史への誘い「八木城跡」、樹齢千年の仙桜「樽見の大ザクラ」、建屋の「ヒダリマキガヤ」、口大屋の「大アベマキ」もあります。

また、国指定の特別天然記念物として保護されている「生きた化石 オオサンショウウオ」や兵庫県指定文化財の天然記念物「ミズバショウ」、ほたるの里では周辺数万匹の「ホタル」が乱舞するなど歴史や豊かな自然環境が残っています。

## 6 主要産品

養父市の特産農産物としては、日本有数のブランド和牛である「<sup>たじまうし</sup>但馬牛」、八鹿町朝倉地区が発祥地であり徳川家康にも献上されたと言われる「朝倉山椒」、八鹿町で古くから栽培されてきた在来種の青大豆「八鹿浅黄」、国家戦略特区事業者が中心となって生産する「にんにく」、昼夜の温度差を活かした甘みが特徴の「たじまピーマン」、高原地域の冷涼な気候を活かして夏場に生産されるハウレンソウやみずな等の「おおや高原有機野菜」及び「轟大根」等が挙げられます。



【但馬牛】豊かな山で放牧が行われている 【おおや高原】270棟の雨よけハウス



## 「おおや高原有機野菜部会」ではこのような農業をしています！

おおや高原有機野菜部会（以下、部会）は、9名の部会員で組織されており新規入植者の多い産地です。兵庫県北部養父市大屋町に位置し、準高冷地の冷涼な気候を活かし、夏のホウレンソウを中心とした有機野菜を生産し、生活協同組合コープこうべ（以下、コープこうべ）を中心に出荷している。約270棟の雨よけハウスを使用し、年間約80トンを生産しています。

養父市は「オーガニックビレッジ」を宣言しており、中でも、おおや高原は有機農業産地としての中核的なポジションであり、受け皿が整っています。

### (1) 主要産品

おおや高原では、準高冷地の冷涼な気候を活かして7品目の有機野菜を生産しています。高原地域であるため、慣行農業と隔離されており有機農業しやすい地域です。また、氷ノ山の天然水を農業用水として利用しており、最上流の綺麗な水のみを利用して有機野菜を生産しています。

#### 【ホウレンソウ】

おおや高原の主力野菜です。

夏の暑くて栽培がしにくい時期を中心に、春から秋にかけて生産しています。土づくりにこだわって栽培しているため、えぐみが少ないのが特徴です。



#### 【ミズナ】

冬に育つ大きなミズナとは異なりシャキシャキの食感とみずみずしさが特徴で生食サラダやパスタなどで召し上がれます。

#### 【ミニトマト】

数種類のミニトマトを涼しい気候を活かし、お盆から秋にかけての端境期に栽培しています。土づくりがしっかりとされているため、おいしさが凝縮したとってもおいしいミニトマトです。



## (2) 収入の目安

おおや高原有機野菜部会で活躍している先輩農家の事例です。

なお、経営内容は参考となりますので、栽培品目や作付量等によって変わります。

### A 農園（ベテラン農業者）

【営農類型】 雨よけハウス栽培（有機栽培）

【経営面積】 約 90 a（うちハウス 36 棟）

【経営構成】 本人+家族、パート4名、農福連携2名

【主な所有農業機械・施設】

トラクター、ホイールローダー、播種機、収穫機、冷蔵庫、熱水消毒機

【農業所得】 約 400 万円

【収入】 約 1,400 万円 【経費】 約 1,000 万円

【主な売り先】 JAたじま（コープこうべ、たじまんま）、その他

【主な栽培品目】 ホウレンソウ、ミズナ、ミニトマト 合計 10 品目

【年間栽培スケジュール】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ミニトマト	閉農期間				定植		収穫					片付け
葉物野菜	閉農期間			播種～収穫を4～5回行う								

※おおや高原では、12月中旬～3月中旬まで積雪があるため閉農します。

『おおや高原有機野菜部会』ではこのような方を募集しています！

#### 【求める農業者】

- ①地域に馴染めて、部会員・JA等の周りとのコミュニケーションが取れる方
- ②有機農業に興味があり、有機JAS認証を所得して農業をしたい方
- ③将来、おおや高原（養父市）で就農希望のある方
- ④先輩農業者の元で研修ができる熱意のある方

#### 【地域行事や協同作業】

- ①農地維持活動（草刈り、溝掃除、ため池やポンプの点検等）
- ②総会、定例会（月1回）
- ③部会活動（消費者等との交流）

## 7 新規就農へのサポート体制



### 農地の取得

養父市は農地が取得しやすい地域です！

養父市は平成 26 年 5 月に国家戦略特区の指定を受け、規制緩和より企業が農業参入しやすい環境を整え、6次産業化の推進による地域経済の活性化と、個人だけでなく企業も含めた多様な農業の担い手確保に取り組みながら、耕作放棄地の解消と持続可能な農業を目指しています。

農地が取得しやすくなりました

#### 農地流動化の促進

- 農地の権利移動の事務処理日数が大幅に短縮
- 農地の権利取得の下限面積を 10a に引き下げ
- 空き家と付属する農地をセットで取得する場合は 10a 未満でも取得できます

### 就農支援制度

こちらは県の制度です！



#### 農業インターシップ研修

農業という職業が自分に合っているか、農業に適正があるかなど体験を通じて確認する研修です。就農を希望する地域で、優れた経営を行っている農業者のもとで農作業や地域の環境を肌で感じることができる制度。

〈対象者〉：兵庫県内での就農を希望している新規就農希望者で、農業体験を希望する者。

〈体験期間〉：短期：1日～7日 中期：最長 30 日以内（1 か月～6 か月）

※連続でなくて構いません。土・日も受け入れ可能（研修先と要相談）

お問合せ ひょうご就農支援センターまたは南但地域就農支援センターへお問合せ下さい。

(公社) ひょうご農林機構 ひょうご就農支援センター ホームページ：http://hyogo-shunou.jp TEL：078-391-1222	ホームページ
南但地域就農支援センター（朝来農業改良普及センター） TEL：079-672-6890 E-mail：asagonk@pref.hyogo.lg.jp	

## 新規就農者育成総合対策

こちらは国の制度です！



### (1) 資金面の支援

新たに営農を開始する方に対して資金を助成します。

#### ① 経営開始資金

対象者：認定新規就農者<sup>\*1</sup> (就農時 49 歳以下)

支援額：12.5 万円/月(150 万円/年)×最長 3 年間

#### ② 就農準備資金<sup>\*2</sup>

対象者：研修期間中の研修生(就農時 49 歳以下)

支援額：12.5 万円/月(150 万円/年)×最長 2 年間

### (2) 経営発展への支援

#### 【経営発展支援事業】

就農後の経営発展のために、機械・施設等の導入を支援します。

(機械・施設、家畜導入、果樹・茶改植、機械リース等が対象)

対象者：認定新規就農者<sup>\*3</sup> (就農時 49 歳以下)

支援額：補助対象事業費上限 1,000 万円((1)①の交付対象者は上限 500 万円)

<sup>\*1</sup> 新規参入者、親元就農者(親の経営に従事してから5年以内に継承した者)のうち新規作物の導入等リスクのある取組を行う者が対象

<sup>\*2</sup> 前年の世帯所得が原則 600 万円以下の者を対象

<sup>\*3</sup> 新規参入者、親元就農者(親の経営に従事してから5年以内に継承した者)が対象

## くらしのサポート

### 田舎暮らし体験

#### ● 短期滞在支援住宅

移住希望者が一定期間市内で生活体験を提供するため短期滞在支援住宅を設けています。

#### ● ちょこっと暮らし住宅

本格的な移住を前に、移住先として検討している地域での実際の暮らしを体験する「ちょこっと暮らし住宅(体験住宅)」を設けています。入居期間は最長 1 年で、自然や気候、買い物、交通、近所づきあいなどの生活環境を体感したり、仕事や住まいを探したりと移住の助走期間として利用できます。

## 住宅支援

### ●空き家情報登録制度「空き家バンク」

市内の空き家を利用（賃貸または購入）したい方に対し、空き家バンクに登録された物件の情報提供を行います。

### ●やぶの空き家活用支援事業

空き家を購入または賃借し、水回りの改修や雨漏り補修等の空き家の機能回復および設備改善のための工事を行う場合、対象経費の1/3～1/2（最大150万円）を補助します。年齢要件等あり。

### ●U・Iターン奨励金

U・Iターン者又は世帯が本市に定住若しくは学生U・Iターン者が就業のため本市に居住した場合、奨励金を一人当たり5万円支給します。

## 子育て支援

### ●子供医療費支援あり（健康保険適用分の医療費無料（高校3年生まで））

小学4年生～高校3年生までのお子さんが市内在住の場合、健康保険適用分の医療費を全額助成します。※18歳到達後最初の年度末まで、高校生助成は令和5年7月から実施

### ●認定こども園・保育所の保育料完全無償化

養父市に住民票がある家庭を対象に、保育料・副食費を無料としています。

### ●学童保育事業

保護者が昼間家庭にいない児童（小学生）が安心して放課後過ごせるよう、月曜日から土曜日まで全小学校区に学童クラブを設置しています。（ただし、土曜日は希望制）

### ●休日一時預かり事業

保護者の就労形態の多様化や傷病等による緊急時の児童の一時的な保育に対応するため、休日や祝日に児童の一時預かり保育を行っています。

（対象：3歳児から小学6年生まで）

お問い合わせ

養父市役所 産業環境部 農林振興課

TEL：079-664-0284 E-mail：nousei@city.yabu.lg.jp



やぶぐらしHP

